「Ｔｈｉｎｋサイクリング山口」設立趣意書（案）

謹啓　皆様におかれましては未曾有の災禍にありましてもますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素から自転車のある生活に関心を寄せて頂き当事者の一員として御礼申し上げます。

その移動や趣味の道具、「自転車」に乗って使うことを表す「サイクリング」に相当する日本語をご存じではないでしょうか？因みに国際自転車競技連盟／ＵＣＩのルールブックには「サイクリングとは、レースを含むスポーツサイクリング全般」とあります。

工業製品としての「自転車」はもちろん、「自転車走行空間」、「自転車利活用」、「自転車乗操心得」など、ハード、インフラ、ソフト、ハートの４要素や、歩道走行問題再燃時に「自転車には、歩行者的利用と自動車的利用の二面性がある」と警察見解が出されたように、「サイクリング」の概念の修正は無理でも、以下のような多様性の中の二面性は共通認識化する必要があると思います。

◆多様性の中の二面性
◎ハード　：　自転車　//　軽　車　両　⇔　スポーツ機材
◎インフラ　：　走行空間　//　一　般　道　⇔　専　用　道
◎ソフト　：　利活用　//　日常利用　⇔　スポーツ利用
◎ハート　：　乗操心得　//　自転車市民権　⇔　自転車多様性

それは、自動車より小回りが効き、歩くより広範囲に移動できる「自転車」の利活用を考える際、『日本の自転車走行環境の実情』が浮上し、議論が先に進まない場面が多々あるからです。
その『日本の実情』は、定まらないインフラ整備、手付かずのソフトの標準化、他人任せのハートの啓蒙活動など、第一次サイクリングブームから潜在する「サイクリングの曖昧な法的根拠」という課題に、コロナ禍で再認識させられたハードの供給体制の空洞化も含んだものです。

つきましては多様性の中の二面性を踏まえて、「自転車のある生活」に多角的に取り組む地域貢献型の団体を新たに立ち上げたいと考えており、また先の見えない状況で互いに支えあう必要性も痛感しており、是非とも当団体の設立趣旨に、ご理解、ご賛同を頂き、後援や情報提供等、ご協力を賜りますようお願い申し上げる次第です。

謹白

令和四年三月吉日
Ｔｈｉｎｋサイクリング山口発起人一同

団体設立概要

一、団体概要／目的、組織、事業　（連絡先／発起人）
二、工程表と補足
三、資料／山口きらめき財団前回申請書抜粋
四、資料／廃校再生サミット山口説明会資料抜粋

案

＜Ｔｈｉｎｋサイクリング山口＞

●目的／子供の玩具、最も身近な市民の足、第一回近代オリンピック正式種目、そして世界一周の相棒、等々、多様に楽しめる「自転車」は、走行空間の整備、利活用方法の提案、乗車や操作や心得の習得も欠かせません。しかし自転車利活用環境の課題は、昭和から平成・令和と時代が進んだ今も『日本の実情』として変わらず潜在し、「サイクリング」の法的根拠も曖昧なままです。その自転車利活用環境を、ハード・インフラ・ソフト・ハートの４要素で考える、ユーザー＋ショップ＋地域が三位一体となった、“地域貢献型マルチサイクリングクラブ”として当会は、「情報発信」「人材交流」「提案型ソフト」を三本柱に、日常利用とスポーツ利用の架け橋となり、一般道の自由使用の範囲の拡大に繋がる、自転車市民権の獲得と自転車多様性の共通認識化を、「先行山口」として目指します。

●組織・活動／目的の達成のため、下記の組織を有し、必要に応じて、イベント情報誌の発行や、提案型イベント等を行います。

◎理事会／代表理事１名、副代表１～２名、事務局４～１０名、分科会５～１０名、顧問３～５名
⇒情報誌編集に合わせて理事会を行う。

◎事務局／総務、広報、企画渉外編集（西部、県央、東部）、会計
⇒主に三本柱の『情報発信』を担当。

◎分科会／交流１（ソフト＆ハート）、交流２（ハード＆インフラ）、事業（セルフ・市民権・多様性・ライセンス・他）
⇒三本柱の『人材交流』と『提案型ソフト』を担当。

○外部連携／自転車多様性に対応するための『人材交流』と『提案型ソフト』では、法的根拠が曖昧なものや一般道の目的外使用や特殊ジャンルの方が多いため、外部組織との連携を図る。

⇒『提案型ソフト』は玉石混淆とも言えるソフトの見極めが必要。一般道では、組織的サイクリングや山道走行が対象で、サイクリング大会やロードレースもこれに含まれる。また専用施設等の特殊ジャンルでは、スクールから競技会まで幅広く対応する。さらに地域貢献と広域連携の守備範囲を考えながら、必要に応じて自転車以外のスポーツや、他の道路利用者との連携も視野に入れる。

※自由使用と目的外使用と地域貢献：一般道の自由使用の範囲で自転車のある生活を考える「Think Cycling」。道の種類や道の目的外使用も意識して自転車の可能性を考える「Think VTT」。そして自転車速度で移動しながら地域の文化や自然を見つめ直す「Think Zapping」。理想はツーリングからレースまで企画運営出来る自転車スーパー先達が所属する「地域貢献型マルチサイクリングクラブ」が、それらをバランス良く担うことだが、『日本の実情』ではそれが難しい。そこで個人や輪界や行政など、自転車利活用の立場を超えた『サイクリングネットワーク再構築』を改めて訴えたい。

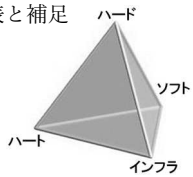
※上記の「Cycling」は、UCI の定義「サイクリングとはレースを含むスポーツサイクリング全般」と、日本人のイメージ「のんびりサイクリング」を比較し、日本の実情を俯瞰したもので、「Think Cycling」として当会が取り組む。

※上記の「VTT」は、フランス語の MTB にあたる全地形型の自転車「Vélo tout-terrain」を、地球の全てを遊ぶ自転車「Vélo pour tout jouer sur terre」と拡大解釈したもの。また「Zapping」は、デンマークの関係者が用いた、自転車と他の移動手段との相互利活用を表す言葉。「Think VTT」は当会で扱いにくい自転車利活用を、「Think Zapping」は、自転車を超えた移動手段全体を、そして三つの「Think」を合わせて「Velo Multi Maintenance」としたい。

＜問い合わせ・連絡先＞
発起人代表：弘重公朗／〒742-0021　柳井市天神並木通りＣＳヒロシゲ　0820-22-0645
事務局担当：國安博之／〒753-0214　山口市大内御堀 4044-8 博友舎　083-927-7922
分科会担当：石丸英明／〒740-0036　岩国市藤生町 1-30-6 ｺｰｽｸﾘｴｲﾄ山口　090-3170-6658
Fax 03-6368-4661　URL http://www.bike-joy.com/TCYc.htm　E-mail bikejoyq@mbr.nifty.com

◎発起人候補（順不同）／弘重公朗（柳井市）、志賀孝治（山口市）、福永一生（岩国市）、棟久明博（山口市）、松岡稔（美祢市）、内富哲男（下松市）、常原圭介（柳井市）、石丸英明（岩国市）、井上桂（下関市）、明日香健輔（山口市）、國安博之（山口市）、為近光夫（宇部市）、光永尚弘（山口市）、三明由嗣（山口市）、市川雅浩（下松市）、村中淳夫（岩国市）、永田昌秀（長門市）

二、行程表と補足



テトラバランスの追求 ⇒ 「軽車両とスポーツギア」／「一般道と専用道」／「日常利用とスポーツ利用」／「市民権と多様性」

＜＜自転車市民権と自転車多様性を考える＞＞

二年跨ぎの提案型ソフト／共有・模索・蓄積

ユーザー＋ショップ＋地域、三位一体型サイクリングクラブの交流で自転車のある生活を考える！

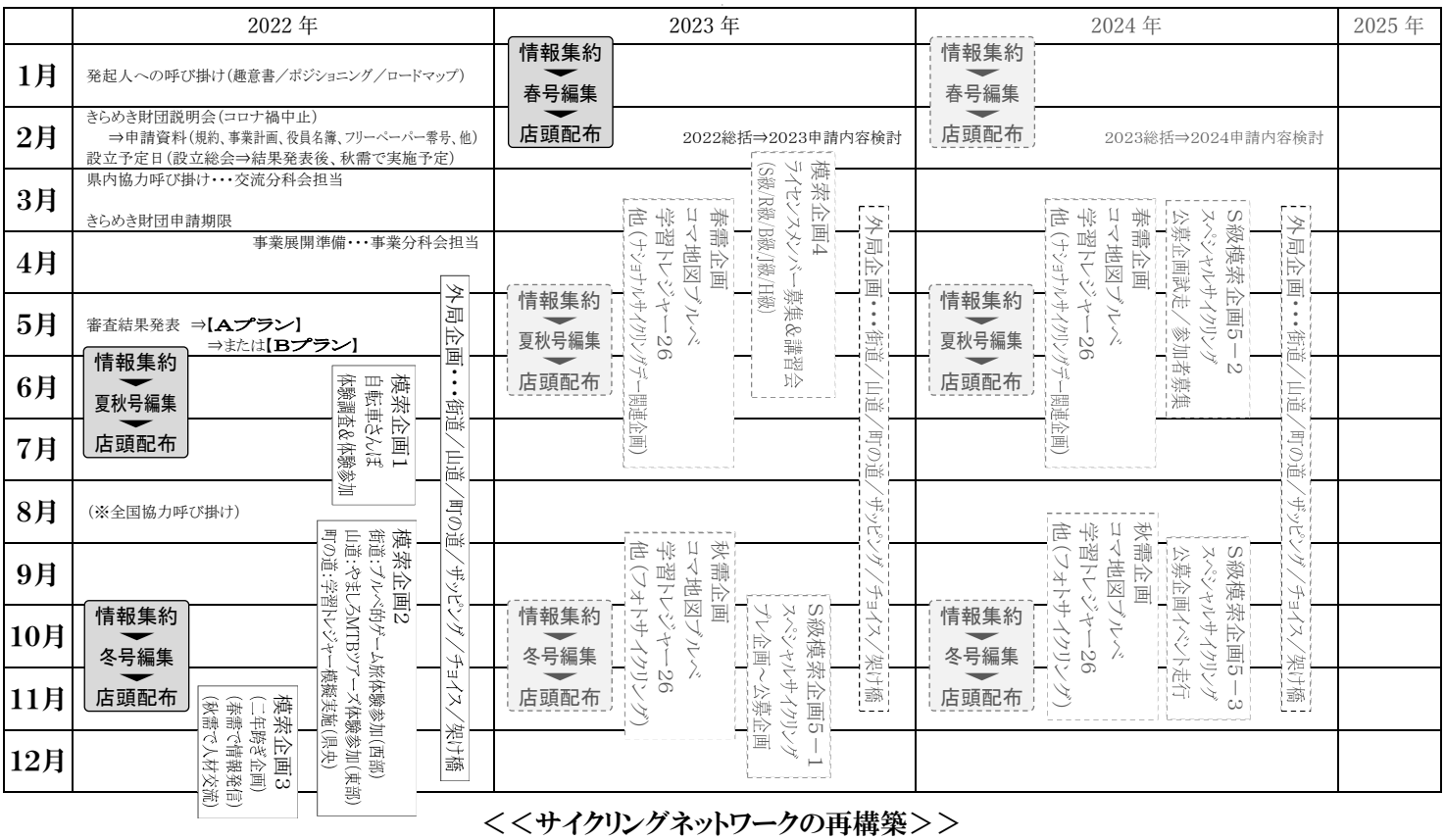
ＬＣＭＣＣ先行山口／Thinkサイクリング山口／春需で発信、秋需で交流

フリーペーパー ／ 学習トレジャーハント ／ コマ地図ブルベ

春需で情報発信／収集・分析　　**秋需で人材交流／発掘・育成**

ロードマップ案

2022/02/22/16:07



＜＜サイクリングネットワークの再構築＞＞

第一次サイクリングブームからの忘れ物／リゾート法とバカンス法／リバーススタッフ＆オウンリスク／LCMCC ⇒ ヴェロマルチメンテナンス

補足①：AプランとBプラン・・・・前回の申請で不採択の理由が、立ち上げに向けた設立準備委員会だったので、今回は正式立ち上げが必要条件となります。しかし十分条件ではないため、可の場合の【Aプラン】と、否の場合の【Bプラン】も想定したいと思います。

◎Aプラン／予算あり
- ⇒総会／秋の企画に合わせて開催。
- ⇒フリーペーパー／予算に合った体裁を考え、夏秋号、冬号、春号を作成。 ※サイクルショップ＆サイクルステーションに配布。 ※ロゴマーク広告への協賛依頼。
- ⇒模索企画・他／関連団体のトレジャーハント企画と連携して、体験調査、体験参加、そして模擬実施を行う。またライセンスメンバー募集も検討する。

◎Bプラン／予算ナシ
- ⇒総会／時機を見て年度内に実施。
- ⇒フリーペーパー／A3裏表版として、ロゴマーク協賛の範囲で秋号を作成。その様子を見て冬号、春号を検討。 ※有料配布を検討し、協力施設に限定配布？
- ⇒模索企画・他／関連団体のトレジャーハント企画に積極的に体験参加し、独自規格は協力ステーションや協力ショップの有無を見極めて検討。

◎二年跨ぎ企画と全国連携／助成金や行政や学校は年度で動いているが、そこには微妙なズレがある。日常利用とスポーツ利用の架け橋となる「春需でソフト」をカバーするには、それを見越した年度跨ぎ企画が必要！？ また、「先行山口」だけでは解決不能な部分があるため、自転車関連団体との情報交換は必須。

補足②：出発地と目的地と先行山口

今回の「先行山口」の基点は「明治維新150周年後継企画」になりますが、出発地は「第一次ブームの衰退／自転車市民権獲得」であり、目的地は「春需でソフトを売る／自転車多様性共通認識化」に辿り着くことと考えます。

しかし、多くの人は、途中乗車、途中下車しかできず、繰り返されるサイクリングブームの中で、サイクリングの法的根拠の論議をする直前※注1で、ブームが止まるという現象が、『日本の実情』の底流に存在するのではと、1990年代のMTBブーム時に感じました。

その当時、諸先輩が「自転車文化」の未熟さを憂い、新参者は「乗る場所の提供」の延長にオリンピックの夢を語り、さらに行政とオーガナイザーは「屏風のトラ理論※注2」で道路利用の責任を棚上げし、その結果、ジャパンはグローバルに飲み込まれ、日本を遊ぶ「自転車」が失われてしまったと！！！

そのため「先行山口」では、子供の玩具から生活の足、旅の相棒、チャンピオンスポーツまでを網羅する、誰でも途中乗車途中下車が可能なタスクフォースを目指します。そして「サイクリングネットワーク再構築」の再々提案を通じて、関係者の底流は繋がっていることを確認したいと思います。

※注1：ブームの背景と法律には一定の関係が見受けられる。「第一次：もはや戦後ではない」「第二次：東京オリンピック／スポーツ推進法」「第三次前半：交通戦争／自転車道整備法」「第三次後半：放置自転車／自転車基本法」「MTBブーム：バブル景気／リゾート法」「平成ブーム：エコ需要・震災需要・インバウンド需要／自転車活用推進法」など。しかしどの法律も、走る場所の規約、自転車置き場の規約、自転車利用の規約と、自転車の可能性を縛る法律とも言える。

※注2：一休さんの有名なとんち話で、将軍が、「屏風絵のトラを退治してほしい」と訴えたところ、一休さんは「では捕まえますから、トラを屏風絵から出してください」と切り返し、将軍を感服させたというお話です。

三、資料

（別紙1）

団 体 概 要 書

ふりがな	やまぐちさいくりんぐぷろじぇくとけんきゅうかいじゅんびしつ	ふりがな	ひろしげ きみあき
団体名	山口サイクリングプロジェクト研究会準備室	代表者職氏名	役職：発起人代表 弘重 公朗
団体所在地	〒742-0005 山口県柳井市天神14-22 サイクリング・サロン・ヒロシゲ内		
設立年月日	２０２０年３月１１日	会員数	８ 人
団体の設立趣旨や活動目的	『山口サイクリングプロジェクト研究会』は、最も身近な市民の足でありながらその法的根拠が曖昧な自転車の走行環境を、ハード・ソフト・インフラ・ハートの４要素で考える。ユーザー＋ショップ＋地域が三位一体となったスーパー先達の所属する"地域貢献型マルチサイクリングクラブ"です。 そして、各方面の人材交流と情報交換を行うハブ組織として、その走行環境の改善や整備を実現するために必要に応じて情報発信や提案型イベント等を行います。	活動分野 ※該当する活動分野に全て☑を付けてください。	☑ 保健、医療または福祉 ☑ 社会教育 ☑ まちづくり・中山間地域づくり ☑ 観光振興 ☑ 学術、文化、芸術、スポーツ ☑ 環境保全 ☑ 災害救援・防災 ☑ 地域安全 ☑ 人権擁護、平和の推進 ☑ 国際交流・国際協力 ☑ 男女共同参画 ☑ 子どもの健全育成 ☑ 情報化・科学技術 ☑ 経済活動、職業能力開発 ☑ その他
活動地域	山口県内（他団体との連携で全国展開も模索）		
3年間の主な活動 平成30年度 (2018)	※有志による意見交換（サイクル県やまぐちの後継企画の模索）		
	団体の事業規模（事業費総額）	― 円	
3年間の主な活動 令和元年度 (2019)	※有志による意見交換（有志ミーティング／岩国市への提言／サークルナイン／他） ※提案型イベントの実践（田布施お宝さがしサイクリング／オレンジトロフィーシリーズ）		
	団体の事業規模（事業費総額見込）	― 円	
3年間の主な活動 令和2年度 (2020)	※スポーツサイクリングファンクラブ春号の作成 ☆スポーツサイクリングファンクラブ・夏号・秋号・冬号の編集配布 ☆提案型イベントの実践（THT26◇150メモリアル／オレンジトロフィー／トライCツアーズ） ☆ホワイトミーティングの開催（第一回総会）		
	団体の事業規模（事業費総額見込）	５００，０００ 円	
令和2年度以降の活動計画	四季に合わせた情報発信フリーペーパーを通じて情報交換と現状分析を行いつつ、日常利用からスポーツ利用へ、ソロ活動からグループ活動へ、サイクリング活動のステージアップの必要性を訴える提案型イベントも仕掛ける。 ☆SCFanClub 春夏秋冬号の編集配布およびホワイトミーティングの隔年実施 ☆巡回スクール＆メンテナンス、THT26◇150メモリアルトーナメント、オレンジトロフィーシリーズ、他 ☆Web展開（※スーパー先達の育成やソフトの標準化など、コンテンツの充実が確実になった場合）		

※活動実績、活動計画には、助成事業に申請しようとする事業以外のものも含め、団体の中心的な活動を記入してください。活動実績がない場合には空欄としてください。

（別紙2）

事 業 計 画 書

申請する事業の名称	山口サイクリングプロジェクト研究会設立に向けた 「情報発信フリーペーパーの編集発行」および「第一回総会の実施」	
事業の実施期間	２０２０年 ５月 ２０日 ～ ２０２１年 ３月 ２０日	
事業の概要	いつ・どこで・何を・どのような方法で行うかを記入してください	
月	**実施する内容・方法**	**場所・参加者等**
5月～6月 8月～9月 11月～12月	☆情報発信フリーペーパーの編集配布⇒Webへの誘導（県内情報集約版） スポーツサイクリングファンクラブ夏号⇒6月20日配布（特集：街道系企画） 取材～編集～印刷～配布 スポーツサイクリングファンクラブ秋号⇒9月20日配布（特集：山道系企画） 取材～編集～印刷～配布 スポーツサイクリングファンクラブ冬号⇒12月20日配布（特集：町の道系企画） 取材～編集～印刷～配布	連携ショップ／サイクルステーション／観光施設／他 ※県内の小中高大、全ての学校にも配布したい。
理想は10月下旬／少なくとも2月中旬までに。	☆第一回総会の開催（ホワイトミーティング） 日程：２０２１年１月２３日（土）予定 場所：山口市近郊 議題：設立に向けた要件の確認、他 ※準備室で議事内容を事前整理	※候補：防府市サイクリングターミナル／美祢市秋吉台リフレッシュパーク／萩市萩明倫学舎／山口市県政資料館
	☆提案型イベントの実践 •THT26◇150メモリアルトーナメント⇒時めぐり萩、城下町長府、田布施旅遊周旋 *10月、12月、3月開催予定（別紙参照／アイドリング編＋リアルCAJ）* •オレンジトロフィーシリーズ⇒十種ヶ峰MTBフェスティバル *11月下旬開催予定（別紙参照／オレンジトロフィー最後大会＋MD26th）* •チョイス型トライCツアーズ⇒らかん清流トライCジオツアーズ *春メニュー／夏メニュー／秋メニュー／冬メニュー* *（別紙参照／やましろMTBツアーズ＋らかん高原サイクルステーション周遊コース案）*	
	☆Web 展開の検討 **（県内情報集約版からコンテンツ充実版へ！）**	

「自転車観光メンテナンス」と「先行山口」

廃校再生サミット山口　打ち合わせ資料

【P1】グローバルとジャパン
1）トレイルメンテナンスとツーリングコンペティション
2）サイクリングの法的根拠／自動車利用と歩行者利用
3）昭和の駅前サイクリングマップ看板の実情の打破

【P2】ゲーム旅と明治維新150周年
4）町と里と生活環境バランス
5）大人の社会見学／点線面

【P3】先行山口と転遊研
6）THT26◆自転車さんぽ
7）街道・山道・町の道・ザッピング
8）タスクフォース陸封降海

【資料】
先行山口／全県企画・限定地域企画・全国展開視野企画
時めぐり萩リターンズ2015／マップ・問題・リザルト
ワンダリングZ山代2021／チラシ・マップ・問題

いわくに研究会
2021/12/18

・・・先行山口・・・

「ゲーム旅」のベースは「THT26◆◆自転車さんぽ」です。MTB ラリーレイドでは課題山積みのため、日本の実情に合った自転車遊びとして、年齢性別車種不問、主催者の大小を選ばない、警察も追認する運輸みルールのものを、転遊研という緩～い集りの仲間と一緒に考えました。

今回はその応用提案になります。

別紙先行山口の、「❶Think Cycling」「❷Think MTB」「❸Closed & Open & Zapping」は、「街道」「山道」「町の道＋ザッピング」に対応しています。そして以下のような組み合わせを考えており、皆様と実現可能な内容を検討出来ればと思います。

街道	サイクルショップ＋サイクルステーション	スペシャルサイクリング
	サイクル県やまぐちで認定された"サイクルステーション"が２６箇所、サイクルプロショップが約２０箇所。インバウンド需要を狙った県の政策も、地元の理解や協力が無ければ「昭和の駅前サイクリングマップ」になってしまう。 CSCS コラボ企画として、セルフ自転車さんぽや広域コマ地図ラリーを提案。	
山道	いわ研プラス杣道再生計画やましろ	リバティフィールド
	MTB 企画が地域を救う！欧米での実例は枚挙にいとまはないが、失われた３０年同様、全く進展が無い。そこで構想２５年のリバティフィールドを、限定地域企画として、山代羅漢冠エリアで試みる。ツアーやラリーの定期開催を目指す。	
町の道	いわ研プラス日本自転車環境整備機構	１５０トーナメント
	明治１００年は盛り上がった。しかし明治維新１５０周年はどうだっただろう？黒船来航に端を発しするが、その終わりは諸説あり。さらに現在進行形との意見もある。予選はセルフ、ブロック大会は東西、そして決勝は萩市。	
ザッピング	いわ研プラス廃校再生サミット山口	ワンダリングＺ山口⇒防長三白
	自給自足の再現、と言えば、大袈裟化もしれないが、毛利藩は少なくともそれで国力を付けた。日本人の遺伝子には「国」と言えば「藩」が今でも残るが、それも薄れる。米作適地で森林資源や海幸山幸の豊かな郷土の、地理、歴史、産業を、自転車速度やファミリー単位の「ゲーム旅」で見直す「タスクフォース陸封降海」として提案。	

先行山口は、左図、毛利チャレンジ 2018 を組み立てる提案の中で考えたものですが、今回はそれを前面に組み立てます。

その中で、自転車関連以外の活動団体と知り合えたことは、可能性を拡げ、また、山口県を見渡したとき、県西部、県央、県東部で、その特色が異なり、そこに、廃校再生サミット山口、サイクルステーション、そしてサイクルショップが、バランス良く点在することも、企画のベースになると思います。

さらに、ドライブバージョンでは、買い物タスクや、グルメタスクも可能で、地元産品や取り扱い施設の PR にも繋がります。

案